

第5回

日 時		平成18年3月28日(火) 15:00～17:00
場 所		奈良県庁6階第62会議室
出席者	(委員)	吉田委員(議長)、国分委員、桜井委員、西委員、谷田委員、(佐野委員欠席)、藤尾委員、菊池委員、上森委員、三上委員
	(事務局)	瓜生医大・病院課長、中川課長補佐、他課員
内 容		「奈良県立病院の将来構想」(案)について意見交換
主な意見		
・「沿革と現状」のところで医大の役割が触れられていない。医大の人材育成、人的資源の供給機能が奈良県の特徴である。 ・医療を取り巻く環境の変化の中で最近の電子カルテ化とかIT化の進展についての記述が必要。 ・へき地に従事する医師、小児科・産科・麻酔科の医師だけが不足しているわけではない。むしろ自治体病院などの勤務医の不足は深刻な状態。 ・また、医師だけでなく看護師、助産師など現場の医療スタッフも不足している。 ・ITを活用した患者情報の共有による病診連携も必要であるが、人材の交流による連携システムも必要。 ・地域の医療機関と連携するうえにおいては、県立病院のポジションをはっきりしないといけない。 ・地方独立行政法人化のメリットをもう少し詳しく記述する方がよい。 ・医師や看護師の確保と育成を図るための県内医療機関の横断的な組織の構築に関して、本提言に盛り込むことについて今回議論したい。 ・どの病院も医師確保に苦勞されており、地域での医療の充足率を広域的に見ていく組織が必要である。 ・医大がこの組織の中心になっており、誤解を受けやすい。 ・医大は人的資源を輩出していることから、中心にしているが、要は人的資源の配分について、もっと効率的でフェアなシステムを作ったかどうかということ。 ・医療スタッフの研修の充実についても、この連携の中で考えていく。 ・病院運営機構は各病院の経営にまで関与するものではなく、このようなコンソーシアム、連合体の中で、協力体制をつくっていく。例えば、医師のプール制についてもここで協議するということ。 ・医療人材育成プログラムを中心に、段階的にコンソーシアムを広げていくことがいいのではないか。		